月報だより

月報だよりの原稿は毎月 20 日締切，翌月に発行の「天文月報」に掲載致します．校正をお願いしておりますので，締切日よりなるべく早めにお申し込み下さい．

e-mail で jimu@geppou.asj.or.jp 宛，なお，原稿も必ず 0422-31-5487 迄 Fax でお送り下さい．

人事公募

標準書式：なるべく，以下の項目にしたがってご投稿下さい．結果は必ずお知らせください．

1．募集人員（ポスト・人数など），2．(1) 所属部門・所属講座，(2) 勤務地，3．専門分野，4．職務内容・担当科目，5．(1) 着任時期，(2) 任期，6．応募資格，7．提出書類，8．応募締切・受付期間，9．(1) 提出先，(2) 問合せ先，10．応募上の注意，11．その他（待遇など）

京都大学理学研究科物理学宇宙物理学専攻教官

1．助手 1 名
2．物理第二教室宇宙線研究室
3．X 線天文学
4．飛翔体を用いた高エネルギー天体の観測的研究，並びに宇宙 X 線検出技術の開発研究
5．(1) 決定後出来るだけ早く
7．○履歴書，○研究歴，○発表論文リスト，○主要論文別冊，○研究計画
8．2001 年 7 月 16 日(月)〆切
9．(1) 〒 606-8502 京都市左京区北白川追分町
京都大学理学研究科　物理第二教室
主任　西川公一郎
(2) 〒 606-8502 京都市左京区北白川追分町
京都大学理学研究科　物理第二教室
宇宙線研究室　小山勝二
E-mail: koyama@cr.scphys.kyoto-u.ac.jp
Tel: 075-753-3833　Fax: 075-753-3799
10．封筒に「教官応募書類」と朱書し，郵送の場合は書留めのこと

東京都立大学大学院理学研究科物理学専攻助教授公募

1．助教授 1 名
2．物理学専攻．本人の希望によって新しい研究室を開いていただく可能性がある．
3．素粒子・原子核・宇宙物理学の理論．それらの周辺分野を含む．
5．(1) 2002 年 4 月 1 日
(2) 日本国籍を持つもの：なし（定年 63 歳）
これ以外のもの：3 年（定年までの再任可）
6．博士号取得者
7．(1) 履歴書，(2) 論文リスト，(3) 主要論文別刷（5 編程度），(4) これまでの研究概要（2000 字以内），(5) 研究計画（2000 字以内），(6) 意見書 3 通（健康に関する所見を含む）．ただし国内応募者は内 1 通を本人について意見聴取できる方 1 名（氏名，所属，連絡先）の提示に置換可．
8．2001 年 8 月 15 日(水) 必着
9．(1) 〒 192-0397 東京都八王子市南大沢 1－1
東京都立大学大学院理学研究科物理学専攻主任
奥野和彦
(2) 同専攻
奥野和彦
Tel: 0426-77-2511（直通）
e-mail: search@phys.metro-u.ac.jp
10．封筒に「理論助教授応募書類」と朱書し，書留で送付のこと．

島根県立三瓶自然館学芸員公募

1．1 名程度
2．(1) 財団における業務のうち，天文に関連する業務等．
(2) 財団法人三瓶フィールドミュージアム財団
〒 694-0003 大田市三瓶町多根 1121 番 8
島根県立三瓶自然館
3．天文分野
4．望遠鏡の操作，保守管理，天体観察会の実施，プラネタリウムの運営など．
5．合格者は平成 13 年 10 月 1 日以降に採用される予定です．

6．(1) 天文に精通している者(大型望遠鏡の操作に詳しく，一般への天文学の教育普及ができる知識を有する者)

(2) 昭和 40 年 4 月 2 日から昭和 54 年 4 月 1 日までに生まれた者（平成 13 年 4 月 1 日現在で満 22 歳から満 35 歳までの者）.

7．財団法人三瓶フィールドミュージアム財団職員採用選考試験申込書

8．平成 13 年 4 月 20 日(金)～平成 13 年 7 月 25 日(水)

受付時間は，午前 9 時 30 分から午後 5 時まで（三瓶自然館の休館日を除く）.

申し込みは，直接持参・郵送を問わず，7 月 25 日午後 5 時をもって締切となります.

郵送の場合，締切日消印であっても，締切後着はお受けできません.

9．(1)，(2)

財団法人三瓶フィールドミュージアム財団
〒 694-0003 大田市三瓶町多根 1121 番 8
島根県立三瓶自然館
職員採用係　担当: 龍・石田
Tel: 08548-6-0216　Fax: 08548-6-0217
http://www2.pref.shimane.jp/sanbe/

10．(1) 財団法人三瓶フィールドミュージアム財団（以下「財団」）職員採用選考試験申込書（別紙）に必要な事項を記入し，財団事務局(三瓶自然館)に提出してください.

(2) 郵送する場合は，封筒の表に「職員申込」と朱書し，書留にしてください．なお，出願は 7 月 17 日受付時間内着分で締切ますのでご注意ください.

(3) 受験票は，申込書の提出があった後，受験資格を審査したうえで，受付締切日後に郵送します.

7 月 25 日(水)までに到着しない場合は財団事務局に照会してください.

11．勤務条件は財団規程に基づきます(給与等は概ね島根県職員に準じます).

勤務にあたっては学芸員資格を要します．採用時に資格を有しない場合は，平成 1 4 年度以内での取得を義務づけます.

応募時に提出された書類は原則として返却しません.

新潟大学理学部物理学科教授または助教授

1．教授または助教授 1 名

2．(1) 新潟大学理学部物理学科

3，4．宇宙物理学（理論）．学部，大学院の教育と研究指導を担当．当学科の宇宙物理学理論グループには，大原謙一，渡辺一也が在職.

5．(1) 2002 年 4 月 1 日

(2) なし．外国人（日本国籍を有しない）の場合は 3 年毎に任用を更新.

6．外国人の場合は，日本語で講義ができること.

7．○履歴書，○研究業績リスト（著書，学術論文，国際会議発表・報告等に分類），○今迄の研究概要（2000 字以内），○主要論文別刷 5 編程度，○研究計画と教育に対する抱負，○照会可能者 2 名の氏名と連絡先

8．(1) 2001 年 7 月 16 日(月) 必着

9．(1)，(2)

〒 950-2181 新潟市五十嵐 2 の町 8050
新潟大学理学部物理学科
学科長　土屋良海
Tel: 025-262-6146　Fax: 025-263-3961
e-mail: yoshimi@rlxjksl2.sc.niigata-u.ac.jp

10．封筒に「物理学科教員応募書類在中」と朱書きし，簡易書留で郵送のこと．教授あるいは助教授のいずれかに応募するかを明記した書類を同封のこと.

研究助成

(財) 宇宙科学振興会
平成 13 年度宇宙科学研究助成候補者募集
(国際研究集会参加費用補助)

(財) 宇宙科学振興会（理事長　武井俊文）では，下記の参加希望者を募集します．関心のある方は募集要項・申請書を請求の上，お申込下さい.

1．助成対象：宇宙理学（地上観測を除く）及び宇宙工学（宇宙航空工学を含む）に関する独創的・先駆的な研究活動を行う若手研究者（昭和 41 年 4 月 2 日以降生まれの者に限る）で，国際研究集会で論文発表が原則として確定している者．但し論文発表採択が未確定の場合でも申請できますが論文発表が条件となります．なお，大学・研究機関等所属長の承

諾を得て応募して下さい.
2．援助金額：1採択当たり約 15 ～ 20 万円
3．申込受付時期：随時受け付けますが，次の締切に間に合うようお願いします.（選考は年 3 ～ 4 回）
7 月 1 日以降出発者については，5 月 15 日
11 月 1 日以降出発者については，9 月 15 日
3 月 1 日以降出発者については，1 月 15 日
4．採択件数：年間 10 ～ 15 件程度
5．照会先：(財) 宇宙科学振興会事務局
〒 229-8510 神奈川県相模原市由野台 3-1-1
文部科学省　宇宙科学研究所内
◎書類は日本天文学会事務室にあります.

平成 12 年度 東レ科学技術賞・研究助成の候補者推薦のお願い

東レ科学振興会から次の概要が届きましたのでお知らせいたします．応募用紙は日本天文学会までご請求下さい.

I. 東レ科学技術賞（概要）
1．候補者の対象……天文学に関する分野で，下記に該当するもの
(1) 学術上の業績が顕著なもの
(2) 学術上重要な発見をしたもの
(3) 重要な発明をして，その効果が大きいもの
(4) 技術上重要な問題を解決して，技術の進歩に大きく貢献したもの
2．科学技術賞……1 件につき，賞状，金メダルおよび賞金 500 万円，2 件前後.
3．候補者推薦件数……1 学協会から 2 件以内

II. 東レ科学技術研究助成（概要）
1．候補者の対象……天文学に関する分野で，基礎的な研究に従事し，その研究の成果が科学技術の進歩，発展に貢献するところが大きいと考えられる独創的，萌芽的研究を活発に行っている若手研究者.
2．研究助成……総額 1 億 3 千万円，1 件 3 千万円程度まで 10 件程度.
3．候補者推薦件数……1 学協会から 2 件以内.

III. 天文学会必着日（I, II とも）
……平成 13 年 9 月 7 日(金)

＊各推薦用紙は，ホームページからもダウンロードできます（平成 13 年 7 月 1 日以降から可）.
URL: http://www.toray.co.jp/kagaku.html

研究助成結果

日本スペースガード協会

天文月報 2001 年 2 月号でご案内致しました日本スペースガード協会の研究助成金は，厳正な審査の結果，ご応募いただきました方の中から前野　拓氏に進呈することが決定致しました.

磯部琇三（日本スペースガード協会理事長）

研究会・集会案内

国立天文台　野辺山宇宙電波観測所 共同利用観測プログラム公募案内

野辺山宇宙電波観測所では，以下の観測プログラムの公募を行います．カバーシートの変更等もありますので，最新の詳しい情報はホームページ **http://www.nro.nao.ac.jp/openuse/** をご覧下さい．各観測プログラムと締切，及び送付方法は以下の通りです.

〈野辺山 45m 鏡及び VLBI 国内ネット〉
第 20 期共同利用観測（2001 年 11 月 ～ 2002 年 5 月）
・一般前期　：2001 年 6 月 5 日(火) JST 15 時（e-mail 又は郵送）
・長期共同利用　：2001 年 6 月 5 日(火) JST 15 時（e-mail 又は郵送）
・一般後期　：2001 年 10 月 23 日(火) JST 15 時（e-mail 又は郵送）
・Short Program 前期：2001 年 11 月 15 日(木) JST 15 時（郵送のみ）
・Short Program 後期：2002 年 1 月 31 日(木) JST 15 時（郵送のみ）

〈野辺山ミリ波干渉計〉
第 15 期共同利用観測（2001 年 11 月 ～ 2002 年 5 月）
・長期共同利用　：2001 年 6 月 5 日(火) JST 15 時（e-mail 又は郵送）
・一般共同利用　：2001 年 7 月 4 日(水) JST 15 時（e-mail 又は郵送）
・Rainbow 共同利用：2001 年 7 月 4 日(水) JST 15 時（e-mail 又は郵送）

国立天文台野辺山宇宙電波観測所
所長　井上　允

国立天文台水沢施設公開案内

期日：平成 13 年 6 月 23 日(土)
場所：国立天文台水沢観測センター
　　岩手県水沢市星ヶ丘町 2-12
　　Tel: 0197-22-7111
公開時間：10 時～ 16 時
公開施設：VERA 関連施設，10 m アンテナ，木村記念館など
講演会：11 時～ 12 時「電波で見る宇宙と銀河」
　　講師　国立天文台教授　川口則幸
その他：ビデオ上映会，実演コーナー，展示コーナー，クイズコーナー，質問コーナー

2002 年 IAU アジア太平洋地域会議の日本開催について

日本学術会議天文学研究連絡委員会委員長　池内　了

国際天文学連合（IAU）は，3 年に 1 度の全体総会（GA）を開催するとともに，ヨーロッパやアジア・太平洋の地域会議を 3 年に 1 度の間隔で開催してきました．日本では，1984 年にアジア・太平洋地域会議（APRM）を開催し，1997 年に全体総会を開催しました．

APRM は，GA が開催される前年に開催する慣行になっており，1996 年に韓国のプサンで開催され日本から 80 人以上が参加しました．続く 1999 年にはインドネシアで開催が予定されていましたが，諸般の事情で開催することができず流会となりました．さらに，2002 年に開催できないと 2 回続けて流会となり，地域集会の呈をなさなくなるので日本で開催できないか，との要望がプサン集会の参加国からあがりました．これを受けて，2000 年 8 月のマンチェスター総会で関係諸国代表者と折衝し，また IAU 役員会でも検討されて，正式に天文学研究連絡委員会（天文研連：IAU 国内委員会を兼ねている）に 2002 年に APRM を日本で開催できるかどうかの打診がありました．

そこで，2000 年 12 月 6 日に開催された天文研連で検討の結果，準備期間を考慮して 2002 年の夏頃，東京で開催することが決定され，SOC 委員長として池内　了，LOC 委員長として長谷川哲夫が選出されました．その後の折衝で日本天文学会および国立天文台も主催団体に加わることになりました．現在，SOC および LOC を立ち上げ，会議開催の準備をしている段階ですが，以下に 2002 年 APRM の概要とスケジュール（案）をお知らせし，会議の成功のために天文学会会員の皆様の御協力と参加をお願いします．

IAU アジア・太平洋地域会議（APRM）

主催団体：日本学術会議天文学研究連絡委員会
　　日本天文学会
　　文部科学省国立天文台
会期：2002 年 7 月 2 日(火)～ 5 日(金)まで 4 日間（予定）
会場：一橋記念講堂および会議室（東京都千代田区）（予定）
会議内容：全体集会，3 つの分科会，ポスターセッションによる天文学の研究発表・招待講演，天文教育・若手研究者の養成,研究者の交流，今後の APRM について，等（なお，この会議の前後にサテライト・ミーティングの開催も考慮する）

今後のスケジュール（案）

2001 年 7 月初旬	会議開催のアナウンス（第 1 回サーキュラー）
12 月初旬	本登録開始，論文受付（第 2 回サーキュラー）
2002 年 3 月末日	Early Registration 締切 口頭発表論文締切
4 月末日	プログラム決定・発送（第 3 回サーキュラー）
5 月末日	ポスター発表締切
7 月	会議
9 月末日	プロシーディング論文締切

第 15 回「天文教育研究会」のご案内

第 15 回天文教育研究会についてのご案内をお知らせいたします．関心のある方は奮ってご参加ください．この研究会の情報については，ホームページ **http://www.fukuoka-edu.ac.jp/~sciedu/tenkyo/** がありますので，ぜひご参照下さい．

期日：2001 年 8 月 5 日(日)～ 8 月 7 日(火)
会場：国立夜須高原少年自然の家
　　福岡県朝倉郡夜須町大字三箇山 1103
　　交通…公共交通機関利用（西鉄バス篠隈から車で 20 分）
http://www.syounen-ie.or.jp/jpn/shisetsu/yasu/101.html
経費：一万円前後
定員：70 名程度を予定しております．
申込〆切：6 月 15 日(金)
日程：【第一日：8 月 5 日】
　　・15:00 集合
　　・記念講演会等

・夕食後，テーマ研究の発表
【第二日：8月6日】
・午前：研究発表
・午後：研究発表，総会
・夜：懇親会
【第三日：8月7日】
・午前：テーマ研究の発表
・昼食後，解散

メインテーマ：
「天文学・教育・社会― 21世紀における天文教育の飛躍―」

20世紀は科学技術の時代と言われ，科学・技術は我々の生活環境に多大な影響を与えました．天文学においても人類は可視光線だけはなく，様々な観測手段を手にすることで数々の発見をし，飛躍的な発展を遂げた世紀でした．しかし，これらの科学・技術は負の遺産も我々に提示し，科学者や技術者がその成果や過程を社会に対して説明を求められるようにもなりました．天文学者も単に研究をするばかりではなく，納税者に対する説明と情報公開などをする必要に気づき始めました．

一方，教育学的研究から単なる教え込みの教育は否定され，学習において知識を構成することの大切さが認識されました．これらのことはこれまでの文化の継承という目的とも相まって理科教育でも非常に重要なテーマとなっています．さらに，20世紀後半の社会教育施設の増加は文化的内容の広報活動に関する問題意識を生じさせました．このような流れは天文学は天文学者のものだけではなく，教育者，社会教育施設，個人との間で共通の文化をどのように共有しなくてはならないという問題を提示したのです．

本研究会では，天文学・教育・社会の様々な観点から実践例の紹介などをとおして天文教育を論じることで，21世紀における天文教育の飛躍を達成するための足がかりを見つけるための情報交換の場になればと願っています．

問い合わせ先：
福岡教育大学理科教育　宮脇亮介
〒811-4192 福岡県宗像市赤間 729-1
Tel: 0940-35-1359　Fax: 0940-35-1740
e-mail: miyawaki@fukuoka-edu.ac.jp

「天文教育普及研究会　第3回近畿支部集会のお知らせ」

天文教育普及研究会では，下記の予定で近畿支部集会を開催します．夜間は観望会も予定しておりますので，お気軽にお越し下さい．天文や教育に関心のある方なら，どなたの参加でも歓迎します．

日時：6月9日(土)　15:00 ～ 18:00
（観望会は 19:30 ～ 21:00）
場所：大阪教育大学天王寺キャンパス
大阪市天王寺区南河堀町 4-88
交通：JR，近鉄，地下鉄天王寺駅から徒歩 10分
内容：
(1) 特集テーマ
「星空を見せて 2001 ～新時代の天体観望会～」
「西はりま天文台の2m望遠鏡計画」
黒田武彦氏（西はりま天文台長）ほか
(2) その他，発表・報告
(3) 天体観望会（19:30 ～）
完成した大阪教育大学天王寺キャンパスの天文台で天体を観望します
会費：500円
申込・予約：不要
発表申込，問合せ：
郵送か電子メールでお願いします．
〒530-0005 大阪市北区中之島 4-2-1
大阪市立科学館内　嘉数次人　宛
E-mail:kazu@sci-museum.kita.osaka.jp
詳しくは，
http://www.obs.misato.wakayama.jp/tenkyo/info.html
をご覧下さい．

会務案内

「E-PASJ 試用版について」

既に月報 94 巻 3 号でお知らせしましたように，PASJ は 2001 年より出版社を(株)プレインに，販売代理店を丸善(株)へ変更するとともに，紙版の表紙，紙質，LaTeX マクロ，ページレイアウトなどを変え，新しい体制で再出発しています．更に，電子版もこの体制のもと，53 巻（2001）の掲載論文より以下のサイトにおいて無償公開を始めています．

〈URL: http://pasj.asj.or.jp〉

また 1 号の論文は，すでに ADS からリンクされています．

PASJ では「E-PASJ 試用版」として，51 巻（1999），52 巻（2000）の掲載論文を公開して参りましたが，これについては昨年末をもちまして公開を中止とさせて頂きました．この点に関しまして主に論文著者の方々から，「古い E-PASJ 試用版はどうなったのか」というご質問を頂いています．しかし，「E-PASJ 試用版」のコンテンツは継続して公開する上で必ずしも満足のできる質に達していなかったことに加え，前の出版社である(株)ユニバーサル・アカデミー・プレスとの間に法的問題が起きているため，編集部としてこの試用版は今後使わないことに決定させて頂きました．結果として，該当する 2 巻分の電子版をご覧頂くことができなくなり，著者および会員の皆様には非常に御迷惑をおかけすることになってしまいました．この場をお借りして慎んでお詫びを申し上げます．現在対応策として，ADS 上でスキャンニング版を掲載してもらうよう依頼致しました．これによって，「E-PASJ 試用版」に掲載された論文が，なるべく早期に電子的にアクセスできるよう，今後とも努力を続けていきますので，もうしばらくの御猶予をお願い申し上げます．

現在公開している正式な電子版では，その品質はもちろん，編集作業終了後の迅速な公開，ADS との相互リンクの実装に特に気を配って制作しています．加えて，紙版は白黒で電子版にのみカラーの図を掲載する場合，カラー料金は無料です．また，使用フォントとページレイアウトの変更により 1 頁あたりの掲載内容が，昨年までに比べ 25 %増加しました．言い換えますと 1 頁あたり 25 %の掲載料の値下げになっています．今年度も特集を予定しており，またなるべく多くの論文が受理後すみやかに掲載されるよう対応していきたいと思っております．今後とも，皆様からの投稿をお待ちしておりますのでよろしくお願い致します．

大橋隆哉（欧文研究報告編集長）

【日本天文学会評議員会　議事録】

日　時：2001 年 3 月 27 日(火)
　　12 時 00 分～ 13 時 30 分
場　所：千葉大学　総合校舎 A 号館 2 階小会議室
出席者：池内，井上，上野，奥田，海部，加藤，
　　木下，高津，小平，小山，佐藤(勝)，福江，
　　福島，松田，観山，渡部　以上 16 名
欠席者：家，石黒，岡村，小杉，佐藤（修），須藤，
　　鈴木，高原，谷口，中村，野本，長谷川，林，
　　吉田　以上 14 名
有効委任状提出者：岡村，小杉，高原，谷口，野本
　　以上 5 名．

他に理事会から田原理事長，唐牛副理事長，郷田理事，大石理事，松原理事，立松理事，茂山理事，東條事務長が出席

議事に先立ち，議長に佐藤勝彦氏を，署名人に小平桂一氏，渡部潤一氏を選出した．

議事の経過及び結果

前回（2001 年 1 月 27 日）の評議員会議事録が郷田庶務理事から報告され，一部修正の上，承認された．

1．2001 年春季年会の報告

茂山年会理事より，2001 年春季年会について以下のような報告があった．3 月 25 日に開催された記者会見では先ず，田原理事長が林忠四郎賞受賞者の説明を行い，その後 3 件の発表が行われた．また，参加報道機関は 5 社であった．さらに年会に関して本評議員会開催時点までの全体の参加者数（約 580 名）及びジュニアセッションの参加数（約 250 名）等の報告もあった．

さらに，記者会見の方法や発表の仕方等に関して加藤評議員より記者向けの発表ではなく専門的すぎるために記事にしにくいとの問題点が指摘され，それに関して意見交換を行い，今後理事会で改善に向けて対処していくこととなった．

2．UAP の件についての報告

PASJ と UAP 間に生じている紛争について，大石庶務理事より，前回の評議員会以降の動向及び学会からの対応に対して UAP からは明確な返答がない旨の報告があった．また，学会側弁護士の意見も参考にして，今後しばらく様子を見ることとしたとの報告もあった．

3．未収会費の徴収策について

継続審議事項である，未収会費の徴収策としての会費の督促料導入等の案について，立松会計理事か

ら3月28日の理事会で議論に諮る具体的な案に関しての説明があった.

4．寄付に関して

田原理事長より，佐藤明達氏から2月に早川幸男基金へ500万円のご寄付をいただいた旨の報告があった．また，理事長が，ご自宅まで直接お礼に伺った事，およびその場でいくつかのご意見を伺った旨の報告があった．特に寄付金は若い人の育成目的に使っていただきたいという意見をお持ちであることが紹介された．それを受けて，寄付金に関して意見交換を行った.

5．今回の総会に関しての報告

郷田庶務理事から本日開催予定の総会の内容，及び，3月26日までの事前投票者数（268名）の報告があった.

6．会費未納者（1999～2000年度）の除名について

会費未納者の除名措置および除名リストについて郷田庶務理事より資料を基に説明があった．議論の後，正会員21名，準会員26名，団体会員1名を除名とすることが決定した．さらに，正会員1名に関しては，状況をさらに調査の上，理事長に処置を一任することとした.

7．その他

(1) 日本天文学会定款について

定款の中で，文部省と記してある箇所は，文部科学省に変更された旨の報告が，郷田庶務理事から行われた．なお，この変更は定款上の変更手続きを経ずに特例として可能なものであった．さらに，郷田庶務理事より，前回の評議員会で承認された内規の変更箇所について説明が行われた.

(2) 次回評議員会について

次回評議員会の予定を以下のように決定した.

2001年7月14日（土）

2001年4月23日

議　長　佐藤勝彦
署名人　小平桂一
署名人　渡部潤一

【通常総会議事録】

日時：2001年（平成13年）3月27日(火)
16時30分～18時30分
場所：千葉大学法経学部105講義室（G会場）
議長：田原博人

議事に先立ち出席者の確認がなされた．事前投票総数は301名，総会出席者は142名である．なお，出席者のうちで事前投票をした14名は，事前投票の方を無効とした．従って，有効出席者総数は429で，定足数（正会員総数1388名の5分の1=278名）を満たしていることを確認した.

次に署名人として桜井　隆氏，平田龍幸氏が選出された.

続いて各賞の授与式が行われ．各賞の選考委員会委員長による受賞理由の説明の後，以下の方々にそれぞれの賞が授与された.

天体発見賞：櫻井幸夫氏，長谷田勝美氏，
高見澤今朝雄氏，山本　稔氏，
青木昌勝氏（2件），宇都宮章吾氏，
金津和義氏
天体発見功労賞：門田健一氏，杉江　淳氏
研究奨励賞：山内茂雄氏
（「あすか」衛星を用いたX線領域での銀河面サーベイ研究）
林忠四郎賞：稲谷順司氏，野口　卓氏
（高感度ミリ波サブミリ波検出器の開発）
欧文報告論文賞：深沢泰司氏，牧島一夫氏，
田村　隆幸氏，江澤　元氏，
Haiguang Xu，池辺　靖氏，
菊池健一氏，大橋隆哉氏
ASCA Measurements of Silicon and Iron Abundances in the Intracluster Medium PASJ, vol. 50, pp. 187 - 193 (1998)

議事の経過及び結果

1．2000年度事業報告が大石庶務理事より報告された（第1号議案）．質疑応答の後賛否を問い，賛成多数で承認された.

2．2000年度収支決算報告および監査報告が，立松会計理事，奥田監事より各々報告された（第2号議案）．質疑応答の後賛否を問い，賛成多数で承認された.

報告事項等

1．PASJの製作および販売委託に関わるUAPとの紛争について，大石庶務理事よりその経緯と今までの学会側の対応について説明が行われ，解決へ向けての今後の学会の対応に対して会員諸氏に支援のお願いがあった．

2．講演者で年会登録料の未払い者が多数いる旨の報告が大石庶務理事より行われ，早急に支払うようにとの注意があった．

3．年会の開催方法についてのアンケートを実施中である旨の説明が茂山年会理事よりあり，会員諸氏にアンケートへの協力のお願いがあった．

2001年4月23日

議　長　田原博人
署名人　桜井　隆
署名人　平田龍幸

【日本天文学会理事会　議事録】

日時：2001年3月28日(水)
　　12時00分～14時20分
場所：千葉大学　総合校舎A号館2階小会議室
出席者：田原，唐牛，松田，郷田，大石，松原，
　　立松，大橋，上野，茂山，加藤，松元，
　　黒田，山内　以上14名
欠席者：吉田　以上1名
　他に，山岡天体発見賞選考委員会委員長，百瀬宗武氏（吉田理事代理），東條事務長が参加した．

議事に先立ち，署名人を選出した．
議長：田原博人
署名人：大石雅寿，郷田直輝

議事の経過及び結果

前回(2001年1月27日）の理事会議事録が郷田庶務理事より報告され，一部修正の上，承認された．

1．2001年春季年会についての報告

茂山年会理事より，2001年春季年会について以下のような報告があった．3月25日に開催された記者会見では先ず，田原理事長が林忠四郎賞受賞者の説明を行い，その後3件の発表が行われた．また，参加報道機関は5社であった．現在までのところ，1社が1件について報道した事を確認している．口頭講演は，254件，ポスター講演は192件，講演キャンセルは5件あった．さらに年会に関して本理事会開催時点までの全体の参加者数は745名，その内ジュニアセッションの参加数は約250名であった．また，ジュニアセッションに関しては，次回秋季年会では午後に全体セッションで行う．次々回以降では全体セッションとして継続するか，パラレルセッションとするか今後検討をする．

また，加藤教育理事（年会実行委員保育室担当）より，保育室の利用は2家族3名であることが報告された．

さらに，加藤教育理事より，3月25日に行われた公開講演会に関して次のような報告があった．「21世紀の天文学」と題し，講師は長谷川哲夫氏，藤本眞克氏，参加者は約80名であった．

最後に立松会計理事（ALMA特別セッション世話人）より，3月26日に開かれたALMA特別セッションに関して，参加者は180名程度であった等の報告があった．

2．UAPの件について

PASJに関してUAPとの間に生じている問題について，大石庶務理事より，前回の理事会からの動向及び学会側からの対応に対してUAP側からは明確な返答がない旨の報告があった．学会側弁護士の意見も参考にして，今後しばらく様子を見ることとする旨が了承された．

3．次回以降の年会開催についての報告

(1) 2001年秋季年会について

黒田年会開催地理事から姫路市内での会場等についての報告があった．

年会日程は，10月4，5，6日，公開講演会は10月7日とする．

(2) 2002年春季年会について

百瀬氏（吉田年会開催地理事代理）から報告があった．会場は，茨城大学水戸キャンパスの予定．日程は，2002年3月28，29，30日，公開講演会が3月31日の予定である事が報告され，理事会としても承認した．

(3) 2002年秋季年会について

山内年会開催地理事から報告があった．会場は，宮崎シーガイアコンベンションセンターの予定．ただし，シーガイアの情勢変化によっては他の会場への変更もありうるので，他の候補地も検討をしている旨の説明があった．

(4) 2003年春・秋季年会について

春季年会について，郷田庶務理事より東北大学と交渉中であるとの報告があった．

また，2003年秋季年会については，粟木氏より愛媛大学開催の内諾を得ている旨の報告があった．

4．新入会員の承認

郷田庶務理事より，新入会員申込者リストの説明

が資料を基にあった．議論の後，正会員として9名，準会員として6名，賛助会員として2名の入会を承認した．なお，会費未納のため，過去に除名となった者の再入会員申し込みに関しては，未納金を納めるまでは，入会を認めない旨の規則を確認し，今回の申込者のうち，該当者（正会員に関して1名，準会員に関して1名）には，その旨を伝え，その後の処置は田原理事長に一任することとなった．

5．入会手続きについて

東條事務長より，数年前から学会事務室で行っている入会手続きの手順に関して資料を基に説明があった．今後もこの手順（入会申請があれば，入会の仮受けをし，会員番号の付与，出版物の送付等は行う．しかし，各種選挙権，被選挙権及び総会の表決権などのいくつかの権利は理事会で正式に承認された後に与える）を踏襲するかどうか議論を行った．結論として基本的にはこの手順を踏襲することとなった．ただし，入会申請に関して問題点があった場合は，実務理事（理事長，副理事長，庶務理事，会計理事）で処置を相談して決める等，実務理事レベルで対応することになった．

6．未収会費の徴収策について

継続審議となっていた，未収会費の徴収策としての会費の督促料導入等について，立松会計理事より改正案が出され，資料を基に説明がなされた．特に前回の案と比較しての変更点が詳細に説明された．議論の後，本案を理事会としては承認し，次回の評議員会に諮ることとなった．ただし，もし案の細部で変更の必要がある場合は，次回の理事会で見直し，修正案を評議員会に諮ることもありうることを確認した．さらに，本案とは別の対策として，会費の自動引き落としの方法をデフォルトとして全会員に課すことを今後も検討を続け，なるべく早期に実行できるように努めることとなった．

7．新賞制定に関して

(1) 天文功労賞（案）に関して

継続審議となっていた，アマチュアの天文活動で，長年に渡る観測・天文啓発に対して贈る新賞として，天文功労賞という名称の賞を制定したい旨の提案が山岡天体発見賞選考委員会委員長よりあり，さらに具体的な賞の内容に関して資料に基づき説明があった．質疑応答の後，次回の理事会で引き続き審議し，結論を得られるよう努力することとなった．

(2) 女性研究者を対象とした賞の検討について

1月27日の評議員会で，理事会での検討事項となった，女性研究者を対象とした新賞の制定に関して意見交換を行った．加藤教育理事から，現在博士課程1年以上の天文学の女性研究者は約70名であり，対象者が少なすぎる等の問題点が指摘された．その後意見交換を行った結果，女性研究者のみを対象とした賞の制定に関しては今回は検討を見送ることとなった．

(3) 研究奨励賞の検討について

(2) と同様に，1月27日の評議員会で，理事会での検討事項となった，大学院生およびポスドクのみを対象とした研究奨励的な賞に関して意見交換を行った．あまり賞の数を増やすのは良くない，既存の賞の枠を広げる方針の方が良い等の意見が出された．なお，加藤教育理事より，蜂巣研究奨励賞選考委員会委員長にも検討をお願いしている旨の報告があり，理事会としても研究奨励賞選考委員会で検討してもらうことを承認した．

8．その他

(1) 日本天文学会定款について

定款の中で，文部省と記してある箇所は，文部科学省に変更された旨の報告が，郷田庶務理事から行われた．なお，この変更は定款上の変更手続きを経ずに特例として可能なものであった．さらに，郷田庶務理事より，前回の評議員会で承認された内規の変更箇所について説明が行われた．

(2) 年会予稿集の広告について

田原理事長より，賛助会員が年会中に会場での展示をする場合，そのお知らせ広告を無料で年会予稿集に記載してもらってはどうかという提案があり，議論の後，本提案を承認した．その他広告掲載料等の実務レベルの話は，実務理事で検討することとなった．

(3) 次回理事会の予定について

次回理事会の予定を以下のように決定した．

2001年7月7日（土）

2001年4月23日

議　長　田原博人　印

署名人　大石雅寿　印

署名人　郷田直輝　印

日本天文学会2001年春季年会報告

2001年春季年会は3月26日(月)～3月28日(水)の3日間，千葉大学（千葉市稲毛区）にて9会場（口頭会場7，ポスター会場2）を使って開催された．講演件数は口頭講演が254件，ポスター講演が192件あり，合計で446講演だった．これに加え，ポストデッドライン講演が4件あった．年会参加者は799名（そのうちジュニアセッション，教育フォーラムのみの参加者は102名）だった．宮路茂樹，松元亮治両氏を中心とする千葉大学の方々の尽力で順調に行われた．企画セッションは「大規模シミュレーション」と「銀河形成」が行われた．座長は次の37名の方々に務めていただいた．会場・時間帯別にお名前を示す（敬称略）．

3月26日(月)	3月27日(火)		3月28日(水)	
10:00-12:00	9:30-12:00	14:30-16:30	9:30-12:00	14:30-16:30
A：沢 武文/山本 智	立松健一	花輪知幸	中本泰史	百瀬宗武
B：富阪幸治	和田桂一	須佐 元	山本一博	長島雅裕
C：谷川清隆	小久保英一郎	松浦周二	粟木久光	林田 清
D：梅村雅之	今西昌俊	祖父江義明	関口和寛	家 正則
E：深沢泰司	大橋隆哉/柴橋博資	桜井 隆	柴田一成	秋田 亨
F：有本信雄	定金晃三	嶺重 慎	神戸栄治	中田好一
G：笹尾哲夫	河野孝太郎	中島 弘	唐牛 宏	舞原俊憲

＜記者会見＞

春季年会の前日，3月25日13:00から千葉大学けやき会館で記者会見を行った．第5回林忠四郎賞受賞者の発表と以下のトピックスについての解説が行われた．5社の報道機関の出席があった．

・第5回日本天文学会林 忠四郎賞受賞者発表

「高感度ミリ波サブミリ波検出器の開発」

稲谷順司（元国立天文台野辺山宇宙電波観測所教授，現宇宙開発事業団招聘研究員）

野口 卓（国立天文台野辺山宇宙電波観測所助教授）

・研究発表

(1) 古い天文データを使った超長周期変光星の探索

記者会見発表者：藤原智子，三好 蕃

講演番号：N64aとY10b

(2) 新種の宇宙ジェットを電波で確認 ～中心天体の正体は？～

記者会見発表者：小原久美子，今井 裕，笹尾哲夫

講演番号：Q07bとQ08b

(3) 地球接近小惑星のふるさとを調べる

－すばる望遠鏡広視野カメラによる微小ベルト小惑星の捜索－

記者会見発表者：吉田二美，中村 士

講演番号：L10b

＜ALMA特別セッション＞

年会初日の3月26日の17:00～19:00に，日本天文学会・日本学術会議天文学研究連絡委員会・国立天文台電波専門委員会ALMA（LMSA）計画推進小委員会の主催でALMA特別セッションが行われ，約180名が参加した．まず，イントロダクションとして石黒正人教授（国立天文台）が講演し，昨年10月にパリで開催されたALMA調整会議（ACC）以降の進捗，特に日本が3者ALMAの正式メンバーとして参加することになったこと，3者ALMA協定書にむけての予定，日本の参加によるALMA計画の強化の案，技術開発における日本側の進捗などについて説明があった．2番目に宇宙化学の世界的権威でALMA科学諮問委員会（ASAC）の議長であるEwine van Dishoeck教授（オランダ・ライデン大学）より，「FROM MOLECULES TO PLANETS: PROSPECTS FOR ALMA」という題目で講演戴いた．ミリ波サブミリ波の輻射の特質，ALMAで達成される超高感度を解説戴いたあと，惑星系形成領域の観測の現状，ミリ波サブミリ波観測の現状をレビューして戴き，ALMAのもたらすインパクトを明快に説明して戴いた．次に観山正見教授（国立天文台）に「比較惑星形成論への展望」という題目で講演戴いた．太陽系外惑星の観測例，惑星形成の理論の現状を紹介戴いたあと，比較惑星形成論の重要性，惑星系形成のタイムスケール，原始惑星系円盤におけるリング状のギャップの観測の展望，地球型惑星の形成などに関して講演戴き，ALMAの重要性をご説明戴いた．最後に総合討論を行い，ALMAの運用形態などに関して具体的な議論が行われた．世話人は，立松健一，長谷川哲夫（国立天文台）が務めた．

（立松健一）

＜ジュニアセッション＞

中学生と高校生が天文学についての研究発表をするジュニアセッションを開催した．これは，2000年の春季年会に続いて第2回目となる．今回は，天文教育普及研究会に共催となって戴いたほか，日本惑星協会，千葉県教育委員会，千葉市教育委員会，千葉大学に後援して戴いた．口頭発表のセッションは，3月26日（14:00～15:30）に行われ，また会期を通じ

てポスターでも研究が発表された．口頭発表が10件（うち9件はポスターでも発表）ポスターのみの発表が3件あり，合計13件の発表があった．口頭発表のセッションでは，参加者が250名ほどと非常に多かった．また，ポスター会場でも3日間にわたり熱心に議論がなされた．発表はどれも力がはいったものであり，口頭発表については時間が不足気味であった．今回も，セッション参加者にはコメント用紙を配布して各研究発表についてコメントを書いてもらい，書かれたコメントは各発表者に送付した．反省点としては，口頭セッションの時間が延びて次のセッションに食い込んでしまったことがあげられる．今後もジュニアセッションは継続していきたいと考えているが，その開催方法についてはさらに検討を続けていきたい．

（吉川　真）

＜天文教育フォーラム＞

「課外活動における天文教育」というテーマで，天文教育普及研究会と共催で年会初日の3月26日の15:30～17:00に行われた．参加者は約200名であった．課外活動における天文教育の現状と今後の可能性を考えるということで，スペースガード協会や公開天文台における実践報告，インターネットを使った新しい可能性の紹介があった．これらに対して，学会をはじめとする天文コミュニティーがどのように関わっていけるのかのヒントが得られた．但し，直前のジュニアセッションが延びた影響で，開始が30分ほど遅れ，討論の時間を十分確保できなかったのは残念であった．

（加藤万里子）

＜公開講演会＞

日本天文学会公開講演会『21世紀の天文学』が，3月25日(日)14:00～17:00に，千葉大学けやき会館にて開催された．参加者は約80名であった．講師および講演題目は，長谷川哲夫氏（国立天文台教授）による「暗黒の宇宙に光をあてる：アンデス巨大電波望遠鏡ALMA（アルマ）」，藤本眞克氏（国立天文台教授）による「宇宙が発する声を聞きたい：重力波天文学への挑戦」である．長谷川氏の講演では，電波と電波望遠鏡，干渉計の紹介から始まり，より遠くをより細かくサブミリ波で観測する必要性からLMSA（ラムサ）計画ができたこと，それが発展し日米欧の合同が合体してALMA（アルマ）計画になったいきさつが説明された．美しい画像をまじえて，わかりやすい説明があり，ALMA計画により惑星誕生や銀河誕生の様子が解き明かされるのが楽しみになる講演であった．次の藤本氏の講演では，三鷹の国立天文台で稼働しはじめたレーザー干渉計TAMA300の紹介があり，一般になじみのない重力波についての説明がわかりやすくなされ，重力波は宇宙の諸現象の中でもひときわ非日常的なさまざまな現象に関する情報をもたらすことなどが解説された．またアメリカやヨーロッパではTAMA300の10倍のスケールの干渉計が建設中であり，わが国でもさらに進んだ装置を計画中であることなど将来の展望についても話された．それぞれの講演の後には質問時間をとり，参加者からの質問を受けた．いずれも熱心な質問が相次いだ．重力波望遠鏡をぜひがんばって下さい，と応援する発言もあった．

（加藤万里子）

＜通常総会＞

「通常総会報告」（273頁）を参照．

＜懇親会＞

懇親会は，3月27日(火)19:15～21:00に，千葉大学学生会館1階の第二食堂において行われた．参加者は約180名と盛況であった．理事長，千葉大学理学部長の挨拶があり，森本雅樹氏による乾杯，懇談の後，次回開催地を代表して西はりま天文台の黒田武彦氏による挨拶があった．(株)エイ・イー・エスよりご芳志を頂いた．この場を借りて感謝の意を表したい．

（宮路茂樹）

＜保育室＞

保育室の会場は千葉大学の年会会場と同じキャンパス内にある教育学部付属幼稚園のご好意で，園内の洋室をお借りすることができた．2家族，子供のべ8人の利用があった．保育者の派遣は(有)ママMATEに依頼した．教育学部付属幼稚園としては学会年会時の保育室として施設を提供するのは初めてということであった．園長先生はじめ付属幼稚園の方々のご好意とご協力に感謝するとともに，保育室運営のさいに，千葉大学の関係者にもお世話いただいたことを感謝する．

（加藤万里子）

（年会実行委員長：茂山俊和）

(社)日本天文学会へ，2001年1月16日から2001年3月28日までの間に入会された方，退会された方をお知らせします．

＊新入正会員（10名）

大倉玉圭	(有)王倉産業
高橋冨士信	総務省通信総合研究所
川勝　望	筑波大・大学院物理(在学)
岡崎　亘	茨城大・大学院理工(在学)
丸田大蔵	東北大・大学院理(在学)
角張洋平	茨城大・大学院理(在学)
小南淳子	東工大・大学院理(在学)
松林達史	東工大・大学院理(在学)
柳橋　歩	千葉大・大学院理(在学)
布施谷洋帆	千葉大・大学院自然科学(在学)

＊新入準会員（7名）

田島あさみ	放送大(在学)
見目正克	奈良女子大・理
大倉信雄	
若狭　功	エドモンド・オプティクス・ジャパン(株)
本橋　登	
石川直美	国立天文台
本多康郎	(株)シーティーアイ

＊新賛助会員（2社）

(株)裳華房	吉野達治
綜合電子株式会社	風間茂穂

＊移籍会員［準→正］（1名）

森　正夫

＊移籍会員［正→準］（7名）

斉藤　亮
寺沢真弓
西堀俊幸
安田春雄
傳田紀代美
渡辺輝彦
藤本光昭

＊退会正会員（30名）

井上勝博	三松正憲	小田　稔
宇津野博士	吉川奈緒	幸　昭
梅山伸二	萩尾文彦	横辺篤史
永井隆三郎	伊藤　胖	浦田健二
太田完爾	奥村成身	北原達正
松本雅道	大越智幸司	寅松雄士
加藤滋郎	橋本谷磨志	
Minoru M. Freund		緒方英樹
Dhani Herdiwijaya		山中正行
Stephen Mcmillan		古屋奈津美
中丸昌和	佐野周作	寺田　宏
西内満美子		

＊退会準会員（38名）

山田雄作	花岡靖治	谷川智康
吉見恵理子	青木　茂	林　陽一
山西正博	西村雅樹	斉藤昌也
奥田祐司	村上達郎	老松喜一
小坂由須人	平田　真	松島　薫
黒田哲史	圖齋菊司	原田　卓
日野杉　洋	八島宏之	阿部浩靖
岩本清浩	角谷儀典	川崎康正
北本比左子	篠原徳之	鈴木孝志
菅原　健	宮武克昌	鍵谷将人
Alphose Sterling		赤坂憲一
高橋幸雄	高橋定男	大橋　顕
小林奈緒美	秋山静華	竹内宏幸

＊退会賛助会員（2社）

立風書房
東北電力(株)

＊退会団体会員（1ヶ所）

大阪教育大学地学教室天文学研究室

編集委員　上野宗孝（編集長），伊藤孝士，上田暁俊，大石奈緒子，太田耕司，
小野智子，斎藤芳隆，土橋一仁，内藤統也，藤田　裕

平成13年5月20日　発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1　国立天文台内　社団法人　日本天文学会
印刷発行　印刷所 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町 565-12　啓文堂　松本印刷
定価 700円（本体 667円）発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1　国立天文台内　社団法人　日本天文学会
Tel: 0422-31-1359（事務室）／0422-31-5488（月報・欧文編集）　Fax: 0422-31-5487　振替口座 00160-1-13595
日本天文学会のウェブサイト http://www.asj.or.jp/　月報編集 e-mail: jimu@geppou.asj.or.jp　DTP: 峯尾由紀子